

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名 ピュア・フィジックス	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.510	△RG 0.056	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール：ピュア・フィジックス

フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離 **4** インチ

番

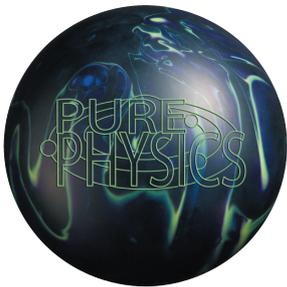
比較対照ボール：ペドラム

フレアーの幅 インチ

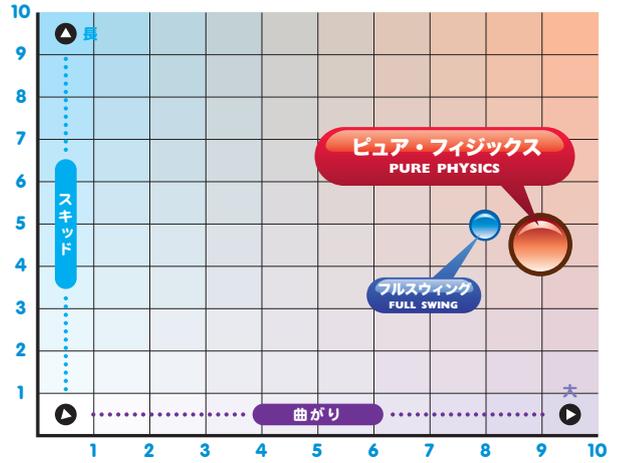
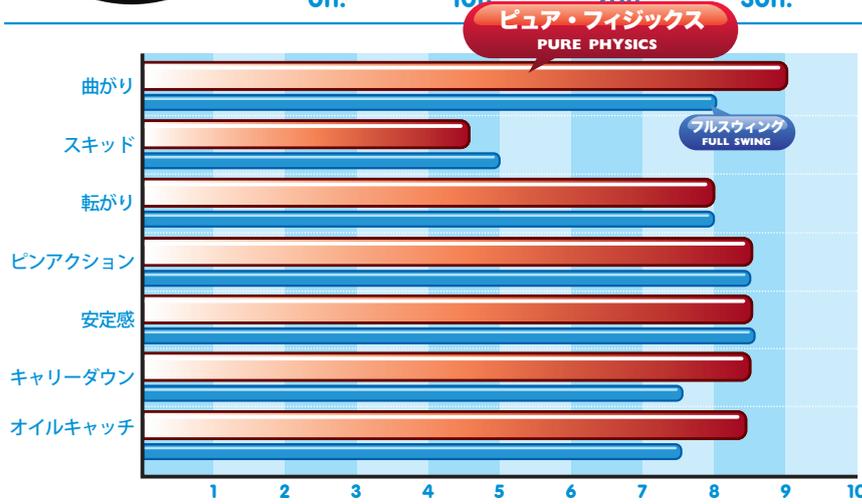
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離 **4** インチ

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

リサーチ→スウィング→フィジックス。このフィジックスに至るまでの過程で各々のモデルでこれだけ圧倒的なパフォーマンスと実績・伝説を残した製品は少なく、今回フルモデルチェンジし”フィジックス”と名付けられたこのボールも例外ではなく、伝説を受け継ぐに相応しい性能で7月15日、全世界に送り出されます。

世界最高級クラスの”表面の粗さ”Ra数値46.5を誇るカバーストック”FULL TILT7.5”を搭載し、大幅に強くなったカバーストックは厚いオイルをものともしないキャッカとキャリーダウンで絶大なる信頼と圧倒的な強さを見出すことが出来るでしょう。

私が投球した第一印象は「キャッチが強く、それでいてバックエンドでの運動量も大きい」というところ。スウィングシリーズのフルモデルチェンジとは聞いていたのですが、”FULL TILT7.5”というただ単に数値が上がったというメリハリ感のない、中弛みなダラダラとしたリアクションイメージは全くなく、キャッチ力とバックエンドの力強さ双方を兼ね備え、”攻撃的にラインを攻める”性能とも感じられるほど絶妙に仕上げられています。今回フルスウィングで使用したコアを数値もそのまま採用していますが、メリハリ感を出せるコアだからそのバックエンドに力強さを感じられると言うことでしょう。

私はコロンビア社とのテストも含め、①PAP-Pin5”in (Pin down)・Mass4”in、②PAP-Pin4”in (Pin up)・Mass4”inの二つを所有していますが、先での動きをさらに強調させるのであれば①を、ミッドエリアでの安定した動きと強いモーションポテンシャルを最大限発揮させるのであれば②を。レイアウトの一つの選択肢としてお考えください。

特記事項

世界最高級クラスのFULL TILT7.5カバーストック搭載。
フルスウィングコアとの組み合わせはオイリーなコンディションで他を寄せ付けないパフォーマンスを実現させてくれるでしょう。